

様式1

提出日 令和8年1月7日

派遣大会・事業名	京王Jr.ウインターカップ2025-26
派遣期間	令和8年1月4日～1月6日
報告者	岡 龍哉
派遣先	東京都調布市

派遣スケジュール

2026/1/4	1回戦
2026/1/5	2回戦
2026/1/6	準々決勝

大会参加審判員(本部・指名審判員のみ記載)

本部審判員	砂川 卓嗣 氏、浅野 慶太郎 氏、岸本 祥也 氏、眞榮喜 工 氏、橋本 恵一 氏、遠藤 大輔 氏、大井 陽平 氏、松永 航平 氏、福沢 佳乃子 氏、大坪 綾音 氏、中江 洋美 氏、本間 さとみ 氏
指名審判員	

審判会議 ミーティング内容(共通事項・強調された点など)

出場チーム・担当審判確認事項

- 試合前のコーチのサインについて
試合中、指揮をとる人が必ずサインをする。試合前のサインは審判に促されなくても、コーチ自らTO席に行き、スタート5人とキャプテンをスコアラーに伝達する。
 - 試合中に立ち続けることについて
コーチまたはAコーチのどちらか1人だけが試合中立ち続けて指示をしてもよい。
Aコーチは審判に話しかけたりすることはできない。
 - タイムアウトの請求について
コーチまたは A コーチが、定められた合図をして請求する。「ショットが入ったらタイムアウト」というような請求はできない。キャンセルする時も、TO 席のスコアラーに申し出る。
 - 交代の請求について
ゲームができる用意をして、交代要員本人がスコアラーに請求する。ゲームキャプテンが交代する場合、次のゲームキャプテンをコーチが審判に伝える。
 - コーチ、A コーチ、マネージャー、チーム責任者、トレーナー等のマナーについて
立ち続けて指示をする者以外は、試合中はベンチに座る。
ユニフォームはパンツの中に入れる。(一部のユニフォームのデザインは除く) 装飾品に関しては一切身につけない。
 - 試合のスムーズな運営について
各クォーターの開始・タイムアウト後の再開について、ブザーが鳴ったらベンチを出て、試合が開始できるようにする。
- 本大会は JBA 競技規則に則り、試合後の抗議を受け付けない。したがって、トラブルを防止するため、コーチはマネージャーと、得点、ファウルの回数等について常に確認し、もし誤りがあったときは速やかに審判および TO に申し出る。ただし、プレー中に TO に話しかけると新たなミスにつながる可能性があるため、時計が止まったときに確認をする。

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和8年1月8日

担当試合

試合日	1月4日(日)
回戦 カード 点数	男子1回戦 東北学院中学校52-61バンビシヤス奈良U15
会場	京王アリーナ東京
審判員名	CC岡龍哉 U1野口祐大(東京) U2馬場圭佑(東京)
審判員主任名	三浦海音(東京)
試合振り返り	

PGCでは、ベーシックを大切に判定を続けていくために、メカニクスの確認を行なった。ゲームは東北学院中の手の使い方を整理するためコールすることが多くなった。奈良が起こしたイリーガルな接触を、もういくつか取り上げてよかったと審判主任から話があった。自分のエリアで起きている事象に対して最後までプレーを確認し長く見続けることで良い判定に繋げていきたい。また、プレーヤーやベンチの意図を意識して、最後まで判定を続けていきたい。ゲームはどの選手も最後まで走り、諦めない姿が素晴らしかった。

担当試合

試合日	1月5日(月)
回戦 カード 点数	女子2回戦 四日市メリノール学院中学校88-38山形ワイヴァンズU15
会場	京王アリーナ東京
審判員名	CC岡龍哉 U1丸山栄治(愛知) U2奥村麻美(宮崎)
審判員主任名	岸本祥也(本部)
試合振り返り	

四日市メリノール学院がオールコートプレスをかけ、手から守りにいったものをコールした方が良いと試合後アドバイスをいただいた。コールできていない原因は、映像で確認するとプレーを長く見れていないことが原因であったので、適切な距離とアングルを常にとりながら判定につなげたい。また、山形HCがいくつか大きなアピールをした中で、対応はしたがワーニングなど別の対応をしてもよかったと振り返っている。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝達したいこと

次のページに記載

様式2

提出日 令和8年1月8日

担当試合

試合日	1月6日(火)
回戦 カード 点数	男子準々決勝 京都精華学園中学校73-62琉球ゴールデンキングスU15
会場	京王アリーナ東京
審判員名	CC浅野慶太郎(本部) U1岡龍哉 U2吉田常海(島根)
審判員主任名	浅野慶太郎(本部)
試合振り返り	

PGCでは処置ミスゼロ、シンプルなプレーコーリング、リバウンドのやり取りをよく見るくことをCCから話があった。試合は終始一進一退の攻防が続く展開であったが、最後京都精華の3Pが連続して決まり引き離す展開となった。処置ミスはなく、その中でプレーをよく見ながら判定を続けることができた点は担当した3試合の中でも良かったと感じる。一方で、3Qに自分がセンターの際、センタードライブからのショットに対する手の絡みが見えず、判定ができなかった場面があった。少しでも見える位置に立つため、ポジションやアングルを工夫する必要があったと反省している。この判定ができなかったことで、その後のターンオーバーからの速攻の場面でも迷いが生じてしまった。どのような状況でもメンタルを崩さず、安定した判定を続けていく必要性を強く感じた場面であった。

担当試合

試合日	
回戦 カード 点数	
会場	
審判員名	
審判員主任名	
試合振り返り	

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

今回はPBA派遣として、3試合審判をしてきた。特に中学3年生にとっては最後の全国大会になる選手も多く、どの試合も点数差関係なく熱い思いを感じた。その中で、まずはプレーヤーやチームファーストであり続けられるようスカウティングを行い、レフリーに取り組んだ。シンプルなプレーコーリングを試合を通して行うことが、自分自身の審判の土台として必要であると最近強く感じている。できていない原因の多くは、プレーを長く見て判定できていないことや、良いポジションやアングルを取れていないことが原因であった。県内でいつも言われていることだが、試合後に正しく自分で振り返ることを積み重ねていきたい。今回派遣させていただき、全国各地のS級～B級審判員とコミュニケーションを沢山とることができた。審判を通して全国の方と関わっていることは自分の財産となっている。レベルアップし、次一緒にクルーを組んだ時に、より良いバスケットボールの試合をつかっていきたい。最後に、大会運営の中心となってくださった東京都の審判員・大会役員方々、また派遣に際しご配慮いただきました梶審判長をはじめ栃木県の皆様に心から感謝申し上げます、報告といたします。